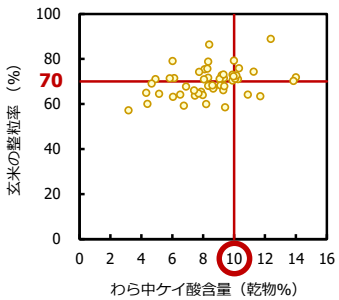
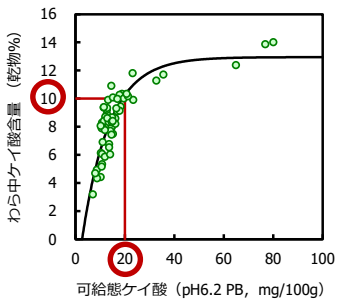
県内水稲栽培における
ケイ酸施用指針を設定しました

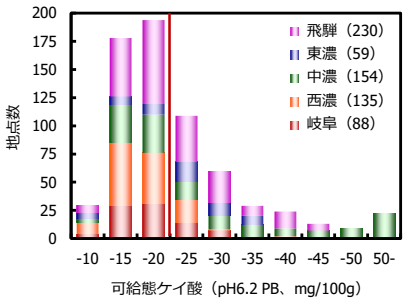
近年、ケイ酸を含む土壌改良資材の施用量が大きく減少しており、県内水田土壌のケイ酸肥沃度は低くなっています。
そこで、土壌診断結果と土壌改良資材の種類に応じて、適切な資材の選定や施用量が決定できるケイ酸施用指針を設定しました。



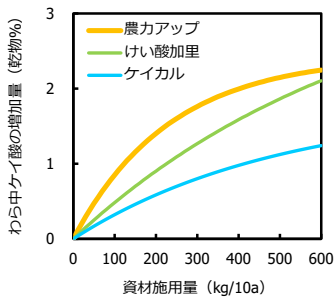
水稲が確保すべきわら中ケイ酸含量
「ハツシモ岐阜SL」10%、「コシヒカリ」8%



土壌の可給態ケイ酸とわら中ケイ酸含量
可給態ケイ酸の改善目標：20 mg/100g

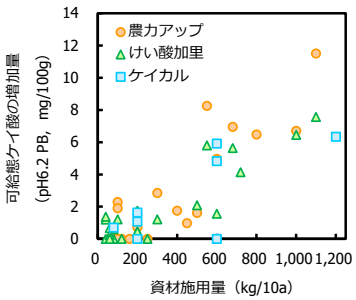


県内水田土壌のケイ酸肥沃度（H26-R4、n=666）
改善目標を下回る地点が 60%



☞ わら中ケイ酸含量の増加を資材ごとにモデル化（主に県内で流通する資材）

どの資材を、どれだけ施用するべきかを判断できる！



☞ 土壌の可給態ケイ酸の増加に資材による差は見られない

☞ 慣行施用量（～200kg/10a）では、大きく増加しないため、継続的な施用が必要！

土壌診断結果と資材の種類に応じた、ケイ酸施用指針

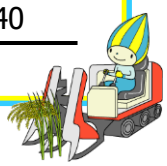
「ハツシモ岐阜SL」

可給態ケイ酸（mg/100g）	pH6.2 PB	～ 14	15	16	17	18	19 ～
	中性PB	～ 6.5	7.0	7.5	8.0	8.5	9.0 ～
資材施用量（kg/10a）	ケイカル	300<	300<	300<	230	100	40
	けい酸加里	300<	300<	230	140	70	40
	農力アップ	300<	200	130	80	40	40

「コシヒカリ」

可給態ケイ酸（mg/100g）	pH6.2 PB	～ 14	15	16	17	18	19 ～
	中性PB	～ 6.5	7.0	7.5	8.0	8.5	9.0 ～
資材施用量（kg/10a）	ケイカル	300<	300<	300<	280	140	40
	けい酸加里	300<	300<	260	170	90	40
	農力アップ	300<	240	150	90	50	40

＊「300<」は 300 kg/10a 以上で継続施用



（岐阜県農業技術センター　土壌化学部）